

# 「標準麻酔科学」第2版

京都府立医科大学名誉教授・麻酔科学 宮崎 正夫  
九州大学名誉教授・麻酔科学 吉武 潤一 編集  
順天堂大学名誉教授・麻酔科学 茅 稽二

北海道大学医学部麻酔学講座

劔 物 修

近年、麻酔学の進歩は著しく、麻酔科医も年々増加してきている。麻酔学の入門書も数多く出版されてきている。1987年に出版された「標準麻酔科学」は、多くの医学徒に親しまれると共に、麻酔専門医を目指す研修医の良きガイドブックとしても活用されてきた。

このたび初版から6年を経て第2版が出版された。第1編—麻酔科学とその基礎知識、第2編—麻酔と管理とその実施、第3編—各種麻酔法の理論と実際、第4編—各科麻酔の実際、第5編—関連領域という構成になっている。初めて本書を繙く医学生は、麻酔科学とはどういう学問なのか、臨床医学の中での麻酔科学の位置付けなどの理解から始まって、実際の麻酔施行の手順、麻酔科学の関連する分野と、一息に読破してしまいたい気持ちを抱かせるほど、巧みな組み立てであり、編者の苦心を窺い知ることができる。

医師国家試験に必要な基礎的理解事項も十分に網羅されている。麻酔をこれから始めようとするビギナー

にとっては、実際の麻酔管理に必要な準備、麻酔法などが平易にまとめられている入門書である。更に、麻酔指導医認定試験を受けようとする者にとっては、知識を整理する格好の書と言える。麻酔指導医認定試験委員長を経験されている編者と、麻酔科医の育成に当たられている執筆者との並々ならぬ努力の結晶であろう。多くの執筆者が参画する場合、文章の記述や配列などにばらつきが出がちであるが、本書ではそれをあまり感じない点にも、編者が普遍性に念頭を置かれたという気持ちが伝わってくる。

一方、気になる点もいくつかある。本書の教科書としての位置付けから思うが、現在使用されていないエーテルやベントレンの記述量が、頻用されているイソフルレンやセボフルレンと同量である必要はない。NLA 変法は日本独特の麻酔法と承知しているが、NLA とは neuroleptics を使用して成立する考えであり、これを benzodiazepine で代用できるものではない。麻酔中のモニ

タリングは近年著しく進歩し、多くの有用な手法、手段が臨床応用されているにもかかわらず、わずか2頁にまとめられている。各論の部分で補充されているとはいえ、一抹の寂しさを感じる。日本麻酔学会編の麻酔科学用語集(改訂第2版)ではハロタン、イソフルランなどの一般名を使用すべきとしているが、本書ではハロセン、イソフルレンなどの慣用語が使われている。ある章では一般名の後に商品名が記されているが、別の場所では商品名だけが使用されているなどの不統一な個所もある。

上述した点が存在したからといって、本書が文字通り“標準”の名に相応しい麻酔科学の教科書としての価値は薄れるものではない。本書を医学生、各科の研修医、そして麻酔指導医を目標とする医師にとっての麻酔科学の入門書、教科書として推薦したい。

● B5 364頁 図163 1993 定価  
5,356円(税込) 円400

—医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)